

令和5年 総務文教委員会行政視察報告

〔参加委員〕

委員長 小林歳春
副委員長 城田 領
委員 小林貴幸 土屋俊重 大塚雄一 塩川浩志 加藤夕紀子
小金沢昭秀 三石知志

1 視察日時 令和5年10月25日（水）～10月27日（金）

2 視察先及び視察事項

- (1) 長崎県 大村市 「大村市ミライ on 図書館」について
- (2) 長崎県 壱岐市 「定住促進」について、「一支国博物館」について
「原の辻遺跡」について
- (3) 長崎県 対馬市 「移住定住対策事業」について、「対馬博物館」について
「つしま図書館」について

3 視察概要

(1) 長崎県大村市「大村市ミライ on 図書館」について

佐久市中央図書館は、佐久市公共施設総合管理計画に基づき令和8年を目途に施設の建て替えを予定しています。総務文教委員会での行政視察において図書館のあり方、図書館の未来像を描くためにも先進的な取り組みをおこなっている、「ミライ on 図書館」を視察し、長崎県県立図書館と大村市市立図書館が一体型図書館として機能している仕組みとそこに至る経緯を学び、新しく創設される図書館機能の道しるべとなるよう学びます。

ア 日時 令和5年10月25日（水）午後1時30分から午後3時

イ 対応 対応者：館長、副館長

ウ 内容

図書の収蔵能力は202万冊あり、九州の都道府県立図書館としては最多で、建物は6階。一般利用者は4階まで入館でき1階に、こどもしつ（子ども向け図書）、おはなしのへや（絵本の読み聞かせ）、おやこトイレ・授乳室、多目的ホール（椅子のみなら200名収容）、バリアフリートイレ。2階は、学習スペース（104席）、グループ学習室（6名×4部屋）、研修室（体験教室やワークショップなどに、78名収容）。3階は一般資料開架スペース（CD、DVD視聴覚資料、車椅子対応席）、予約本コーナー（利用者が予約、貸し出し手続きが出来る）、自動貸出機（利用者が貸し出し手続きが出来る）、対面朗読室（目が不自由な方などが対面朗読サービスなどをご利用できる）、4階は、資料閲覧スペース（閲覧席：116席）の規模をほこります。

省エネ対策で床下からの吹き出しにより、居住空間を中心に空調する仕組み、センサーで人の増減、自動で照明と空調調整で、効率のよい空調システムや全館LEDなどエネルギー効率62%を達成しています。図書ボランティアの育成支援を行い、読み聞かせボランティア、図書ボランティアなど7団体があります。協業レファレンスサービスとして、一体型図

書館と同様、郷土資料センターは、市立図書館で対応が困難な問い合わせや相談について、市立図書館の求めに応じて、電話やインターネット等で回答を行う。身体的障害等により図書館の利用が困難な県民に、郵送による図書館資料の貸出を行う。書籍販売事業者の「週刊新刊全点案内」に掲載されている資料を全て購入しています。

エ 考察

膨大な本を管理し貸し出すには I C チップを使い自動化を取り入れるなどをしないと人手不足、人件費削減の時代には工夫が必要です。ペーパーレス時代に紙ベースの本が本当に必要かの議論もしっかりおこない、ロジックを組み立てないとあらぬ方向に行きかけないとも限らないと、巨大な書庫をみて感じました。大きな空間、規模感に圧倒されながらも、佐久市も規模は違えど、身の丈に合わせた対応は必要だが、図書館の旧態依然の概念にとらわれずに、独自のアイディアを考えだし、図書館のもつ可能性を模索していったほしいものです。



大村市ミライ o n 図書館の様子

(2) 長崎県壱岐市「定住促進」について

ア 日時 令和5年10月26日(木) 午前9時から午前11時

イ 対応 対応者：企画振興部 政策企画課長、課長補佐、主事

ウ 内容

壱岐市移住者住宅等支援事業補助金については、移住者住宅取得支援があり、新築住宅の場合…対象経費の10分の1(上限250万円)、中古住宅の場合…対象経費の5分の1(上限100万円) 中古住宅改修費用支援は、中古住宅の改修及び放置されていた家財道具の撤去にかかる経費で、対象経費の2分の1(上限100万円)、移住費用支援は市外から本市へ移住する際にかかる荷物運搬料及び交通費等の経費で対象経費の3分の2(上限20万円)などがあり、移住を検討している方に政策企画課内にてワンストップで対応する相談窓口を設置しています。また、U I ターンを促進するため、市内への移住を目的に市内で住居及び仕事を探し、暮らしを体験する活動に対し、予算の範囲内において滞在費の一部を補助しています。聞いていて、手厚い補助金がよく捻出出来ていると思いましたが、聞くところによると離島活性化などの国からの手厚い交付金があるからこのような取り組みができるとのことでした。ただ、広報の関係、壱岐市は長崎県ではあるものの、近い県が福岡県とい

う立地であるため苦慮している様が見受けられましたが、様々なツールを使い移住案内等を行っています。

エ 考察

離島の強み、弱みを理解した上で移住施策を打ち出しています。離島していく者、県外から移住してくる者、どこに住むかは千差万別ですが、選び、選択される市になるには生みの苦しみがあること。ひるがえって佐久市に置き換えれば、選ばれやすい地の利が数段上なので、さらなる施策が求められる。

(3) 長崎県壱岐市 「一支国博物館」について、「原の辻遺跡」について

ア 日時 令和5年10月26日（木）午前9時から午前11時

イ 対応 対応者：館長

ウ 内容

長崎県全体の考古学研究の拠点として整備されました。壱岐島内に原の辻遺跡の歴史遺産がとりわけ多いことから、全国でも初となる離島への設置となりました。「魏志倭人伝」に記された一支国の王都跡とされる原の辻遺跡や壱岐島内の遺跡に関する資料や出土品を収蔵展示し、修復などの作業も展示の一部として捉えガラス張りの作業室となっていました。ここでも県と市が共同で建設していて設計者は著名な黒川紀章建築都市設計事務所。壱岐は歴史が長いので、大きくない一支国博物館も中身は充実したものになっていました。新しいため見せる工夫もされていて、展示内容もコンパクトにまとめられ分かりやすく、当時を再現したジオラマも遊び心がありました。

エ 考察

原の辻遺跡などの歴史的価値のあるものを維持管理していけるだけの財政措置が未来永劫残せるためにも文化財に対する考え方、必要性、必然性を考えさせられました。訪れる人の多さを鑑みれば杞憂かもしれません。博物館の設計者が著名であること、それが営業トークにつながっていることを考えれば、設計料は相殺されていると考える方が妥当なのかもしれません。歴史的価値を考察すれば、島自体が博物館と捉える方が自然かもしれません。



一支国博物館（オープン収蔵庫）の様子



原の辻遺跡（宿舎）の様子

(4) 長崎県対馬市「移住定住対策事業」について

ア 日時 令和5年10月27日(水) 午前9時30分～正午

イ 対応 対応者：しまづくり推進部 地域づくり課長、係長

ウ 内容

昭和35年での約7万人近く人口が、令和5年3月末では約2万8千人。ある調査が出した推計によると17年後には約1万5千人まで減少と驚くべき数字があり、移住施策に注力しています。施策としては、しま暮らし支援補助金、ふるさと就職奨励補助金、結婚移住奨励補助金、奨学金返還支援補助金、ひとり親家庭移住支援補助金、しまぐらし下見等事業補助金、空き家改修費等補助金、インターンシップ人材確保支援事業の8つがあり、かなり細かく制度設計がなされています。他にも補助金・手当の施策として、子育て関係が4施策、教育関係が2施策、医療福祉関係が9施策、雇用等関係が4施策、地域づくり関係が2施策、商工業関係が1施策、税関係が2施策、その他に4施策が展開されています。様々な施策を離島ならではの工夫で人口流失を食い止めようとしている姿がみえます。

ディスカッションでは同じ日本という事もあり、生活に関する諸課題は佐久市と共通しています。興味深かったのは、本来いなかった野生動物の被害が近年多発してきたというもので、固有の生態系への懸念が残ります。

エ 考察

壱岐、対馬両島、概ね同じ離島という事もあり移住、人口流失等は離島ならではの課題、悩み等々が垣間見えました。離島ならではの交通へのアクセス問題で本島での2拠点生活、就職なども多く、福岡県に出やすいため、距離、交通の利便性からも環境的要因としても、馴染み深い事からこれらは避けられません。だからこそ知恵を絞り情報発信、魅力あるコンテンツなどを継続して、定着、移住に結びつける努力を惜しまない姿勢が大事であること示唆しています。

(5) 長崎県対馬市「対馬博物館」について、「つしま図書館」について

ア 日時 令和5年10月27日(水) 午前9時30分～正午

イ 対応 対応者 「対馬博物館」について：観光交流商工部 博物館学芸課長
「つしま図書館」について：館長、主任(司書)

ウ 内容

博物館は、合併前に町が文化財も多く博物館を立てて欲しいという要望があり時間をかけ今に至っています。2003年に策定委員会が設置され、2022年に開館博物館。約20年かけて今の姿となりました。独自のマスコットキャラクター「越高獅子右衛門(こしたかししえもん)」を制作。建設にあたっては県のお金も入っています。

図書館については、対馬市交流センター4階部分となっており、元々は別の利用目的だったものを図書館に変更し新たな拠点として生まれ変わりました。

長崎県立長崎図書館、大村市ミライオン図書館と連携しており、アプリ登録をすれば電子書籍サービスを受けられる他、インターネット取寄せ申し込みシステム「とりよせくん」に

より本を取り寄せることができます。これは画期的な取り組みだと感じました。

エ 考察

博物館は、古くからの朝鮮との交流の歴史、防人、元寇、朝鮮通信使、国防の歴史など、大陸と近いこと国防の歴史として重要な地であると、博物館があることで理解できるため、対馬市のみならず日本国民としても重要な施設であります。

図書館のトイレに入って驚いた事は、広さが尋常じゃなく広く、そのため開放感、清潔感が優れています。聞いたところでは、介護施設になるための設計であったため、中でストレッチャーがとり回せるスペースは魅力的です。



対馬市役所



対馬博物館（梵鐘）の様子